

令和6年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 後援

吉備中央町教育委員会

(2) 期日

事前学習会：令和6年6月16日（日）

受入：令和6年6月27日（木）～7月1日（月）4泊5日

(3) 参加者

① 募集人数

ホストファミリー21家族

② 参加人数

ミクロネシア諸島参加者 35人

ホストファミリー参加者 77人（22家族）

(4) 会場

事前学習会：ピュアリティまきび

学校訪問：吉備中央町立吉備高原小学校

(5) 講師等

事前学習会（英会話教室） 池田 好美 氏（YoshimiEnglishSchool）

(6) 企画・運営のポイント

- ① ホストファミリーを募集するのに、吉備中央町内の小学校だけでなく岡山国際交流センターや岡山市の小学校など広く広報する。
- ② 事前学習会を設けることで、ホストファミリーに対して事業の概要を説明したり英会話教室を行ったりして安心してホームステイに取り組めるようにする。
- ③ ミクロネシア諸島参加者にとってよりよい体験にするために、学校訪問での内容や所内での活動を工夫する。
- ④ 参加者への負担も考慮して、ゆとりのある時間設定にする。

3. 活動の内容等

(1) 日程

日数	日付	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
1日目	6/27 (木)								11:30 岡山空港着	移動	昼食	岡山城 見学	移動	入所式 宿泊準備	夕食	入浴	休憩	就寝		
2日目	6/28 (金)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	準備	学校訪問		昼食	晴天：カッター活動 荒天：焼き板			休憩	夕食	ホストファミリー 交流タイム	入浴	就寝			
3日目	6/29 (土)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	準備	ホームステイ													
4日目	6/30 (日)	ホームステイ							レセプション (交流会)	振り返り	自由時間	夕食	片付け 荷物整理	入浴	就寝					
5日目	7/1 (月)	就寝	起床・洗面 清掃	朝のつどい	朝食	準備	岡山空港 送迎	岡山空港 自由時間 搭乗手続き	12:25 岡山空港発											

(2) 活動の状況



【岡山城見学】



【学校訪問(外国語授業)】



【学校訪問(習字体験)】



【焼き板】



【ホストファミリー交流タイム】



【レセプション(交流会)】



【お別れタイム】



【お見送り】

4. 成果・課題

(1) 満足度 (日本人参加者)

満足：68% やや満足：27% やや不満：5%

(2) 参加者の声 (日本人参加者)

- ① 翻訳アプリに頼ってしまったので、英語をしっかりと勉強して交流できるようになりたい。
- ② 実際に話してみると自分はあまり英語を話せないことに気付いた。だからもっと英語を話す機会を増やしてペラペラの英語を話せるようになりたい。
- ③ ミクロネシア諸島の人はとても明るく優しく、いつでも笑っているかのように元気だったので、自分もミクロネシア諸島に行ってみたいと思った。
- ④ もっとコミュニケーションをとりたかったけど、ミクロネシア諸島の参加者がずっとスマホをいじっていて残念だった。

(3) 成果

- ① ホストファミリーを募集するのに、吉備中央町内の小学校だけでなく岡山国際交流センターや岡山市の小学校など広く広報したことで、22家族の応募があった。
- ② ホストファミリーに対して事業の概要を説明したり英会話教室を行ったり事前学習会を設けたことで、安心してホームステイに取り組める手立てとなった。

- ③ 学校訪問では、外国語の授業と習字体験を計画して、ミクロネシア諸島の参加者と日本の子供が交流する姿が多く見られた。また、所内での活動は荒天のためカッター活動は中止となったが、活動プログラムとしてよく活用される焼き板を体験したことで、ミクロネシア諸島の参加者にとっていい思い出となった。
- ④ ゆとりのある時間設定は、ミクロネシア諸島の参加者の実態に合っていた。

(4) 今後の課題

- ① 事前学習会でミクロネシア諸島の歴史的背景や生活習慣をより詳しく伝えたり、ホストファミリー同士でどんな活動をするか話し合ったりする機会を設けることで、ホームステイの内容がより充実すると考える。
- ② 今年度は振り返りの時間にホストファミリーの方にアンケートを書いてもらったりミクロネシア諸島の参加者へビデオメッセージを撮ったりしたが、ホームステイでどんな活動をしたかを話し合う機会を設けることで、ホストファミリーの交流になったり、次年度の活動へつながったりするきっかけになるのではないかと考える。
- ③ ミクロネシア諸島の参加者がスマホを使用する時間が長かったので、ホストファミリーと交流する際には制限をかける必要があると考える。

担当：企画指導専門職 藤本 昌克